

女川原子力発電所2号機におきまして、7月12日に硫化水素により体調不良者が発生し、7月16日には非常用ガス処理系設備※が計画外で作動する事象が発生しました。2022年度の安全対策工事完了に向けて取り組んでいる中、こうした事象を発生させてしまい、地域の皆さまにご心配をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

■ 硫化水素による体調不良者の発生について

7月12日、2号機制御建屋内において、硫化水素を吸い込んだ協力企業作業員7名が体調不良を訴え、医療機関を受診しました。

本事象は、1号機廃棄物処理建屋の廃液を貯留するタンク内に蓄積していた硫化水素が配管を通じて2号機の制御建屋内に流れ込み、当該作業員が吸い込んだことによるものと推定しています。

現在、詳細な原因調査を行っており、労働基準監督署の指導の下、原因に応じた対策をしっかりと検討し、その内容を取りまとめ次第、お知らせすることとしています。

なお、体調不良となった7名は、7月19日までに全員が仕事に復帰しています。

■ 自治体による立入調査が行われました

7月15日、硫化水素による体調不良者の発生および2021年2月以降に発生した地震による3号機燃料プールへのボルト類の落下状況などについて「女川原子力発電所周辺の安全確保に関する協定書」に基づき、宮城県、女川町および石巻市による立入調査が実施されました（登米市、東松島市、美里町も同行）。

調査後の講評では、宮城県原子力安全対策課の伊藤健治課長から「硫化水素による体調不良者発生という看過できない事象であり、ひいては発電所の安全性にも影響するため、原因調査・再発防止の徹底を求める」「ボルト類の落下については、速やかに恒久対策を進め、未確認の落下物も確認すること。撤去工事や不測の地震により燃料プールへさらにボルト類を落下させぬよう安全第一で運営すること」などのご指摘をいただきました。

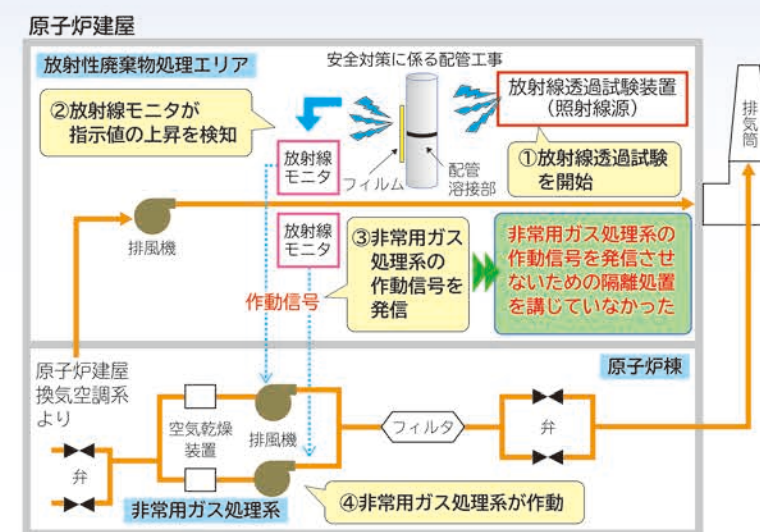


女川1号機廃棄物処理建屋内で
事象の説明を受ける自治体関係者

■ 非常用ガス処理系設備が計画外に作動した事象について

■ 事象の概要

7月16日、2号機の安全対策工事に伴う配管工事において、配管溶接部などの欠陥の有無を確認するために放射線透過試験を実施していたところ、この試験により発生させた放射線を、放射線モニタが検知し、非常用ガス処理系が作動しました。



事象概要図

■ 事象の原因

放射線透過試験の実施にあたり、非常用ガス処理系が作動しないよう、あらかじめ放射線モニタからの信号を発信させないための隔離処置を講じていませんでした。

放射線モニタの隔離処置を講じる必要がある場合は、保修作業担当グループから運転管理担当グループへ依頼して実施しますが、今回、運転管理担当グループにおける、隔離処置などの作業内容を記載した書類の確認が不足していました。

■ 主な再発防止対策

- 作業内容を記載した書類を保管する個別ファイルについて、隔離処置の有無によって色を変えることなどにより、視覚的に識別できるようにします。
- 作業内容の確認時は、運転管理担当グループ内で、隔離処置の内容のダブルチェックを行います。

※放射性物質の放出を伴う事故発生時に、放射性物質を除去し、外部への放射能による影響を低減させるための設備

《女川駐在地域統括就任のご挨拶》

原子力本部副本部長女川駐在地域統括の森則之が6月25日付で異動*し、後任として、土田茂(女川原子力発電所地域総合事務所)が就任しました。



このたび、原子力本部副本部長女川駐在地域統括に就任いたしました土田茂です。これまで女川原子力発電所地域総合事務所に在籍し、長らく女川町、石巻市をはじめ地域の皆さまにお世話になってまいりました。心より感謝申し上げます。

今後は、女川駐在地域統括として引き続き地域総合事務所において、年2回の「こんにちは訪問」など、さまざまな場面で発電所の情報発信に努め、地域の皆さまからのご意見をお伺いし、それにお応えしていく活動をさらに促進してまいります。

皆さまに信頼され、安心できる発電所を目指し、今後とも所員一同全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

※森則之前地域統括は、6月30日付で「日本原燃株式会社常務執行役員」に就任しました。

《「いもフェス2021」を開催しました》

7月22日、23日の両日、女川原子力PRセンターにおいて、発電所の周辺にお住まいの小学生や未就学児を対象に、じゃがいも掘りの体験イベント「いもフェス2021」を開催しました。

イベントには、2日間合計で110名にご参加いただき、参加者からは「じゃがいも掘りを通じて、PRセンターを身近に感じられた」などの声をいただきました。

PRセンターでは、今後も、地域の皆さまに楽しんでいただけるイベントを開催してまいります。



夢中でじゃがいもを掘る参加者の様子

《「こんにちは訪問」を実施しました》

7月8日から21日にかけて、女川町と石巻市牡鹿半島の皆さまに発電所の状況をお知らせし、ご意見などをお聴きする活動「こんにちは訪問」を実施しました。

40回目となる今回も、前回(2020年12月)に引き続き、新型コロナウイルス感染防止の観点から、ポスティング方式にて実施し「発電所の安全対策」や「女川1号機の廃止措置」に関する内容等を記したパンフレットなどを各ご家庭にお届けしました。

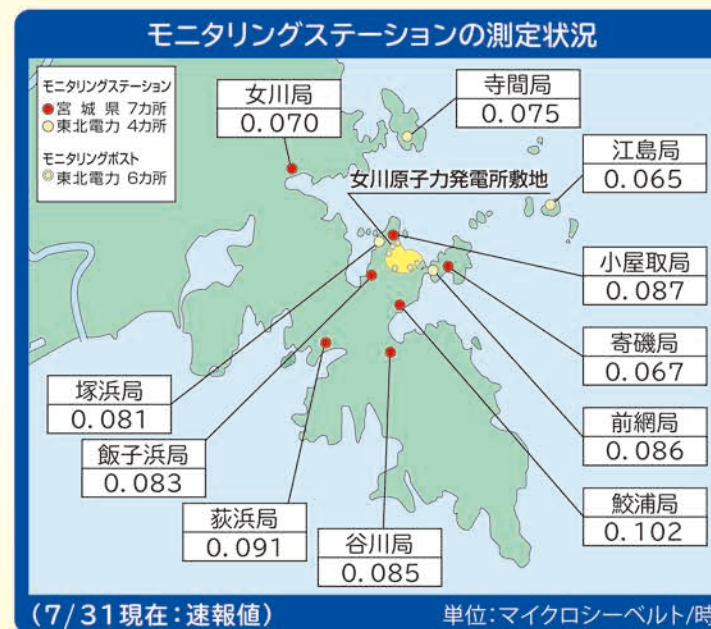


資料をお届けする社員

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト*1やモニタリングステーション*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2021年7月31日の測定値は、最大で0.047マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値*3

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	測定値
2011年3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	
2011年3月13日	1.8~21*4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉	
2012年4月1日	0.063~0.098
2013年4月1日	0.055~0.076
2020年4月1日	0.034~0.055
2021年4月1日	0.034~0.047
2021年7月1日	0.033~0.050
2021年7月31日	0.033~0.047

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。
 ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
 ※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。
 ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。